

# 登山月報

IFSC世界ユース選手権	1
ジュニア登山教室 in 立山を終えて	3
第58回 Mountain World	5
第16回JOCジュニアオリンピックカップ開催	6
平成25年度「SCコーチ養成講習会」報告	7
竹内洋岳氏、文部科学大臣顕彰	9
【新刊図書紹介】『唐沢岳幕岩』	9
JMA、寄贈図書、編集後記	9

## IFSC世界ユース選手権 (2013.8.15~19) **日本ユース大活躍 金2個、銀1個、銅1個 全員予選通過**

カナダのブリティッシュコロンビア州ビクトリア郊外のサーニッチで行われたIFSC世界ユース選手権2013で日本は金2個、銀1個、銅1個の計4つのメダルを獲得し、過去最高の成績を上げることができた。

今大会への参加は34ヶ国で、参加人数もスピード競技のエントリーも含め440名程度と、自分が知る限りここ数年では最も小規模な大会だった。有力国のスペインやニュージーランドの不参加のほか10名以下の小規模チームが多かった。アジアからは日本と同規模の韓国、中国は1名のみと少々さびしい感じだった。唯、フランスなどは6名全員が決勝に残れそうな少数精鋭できており、顔ぶれを見ても表彰台圏内と思われる有力選手も多いため、トップレベルの競争は従来同様の厳しさが予想された。

日本チームは男女あわせて14名の選手が参加。大会参加者が少ないことは、予選通過のハードルを下げることになる。日本チームは全員予選通過。これは、フランスのバランス大会(参加700名超規模)以来の快挙だ。唯、バランス大会ではその後の準決勝でほとんどが敗退。決勝に数名残るものの、表彰台には誰も立てなかった。全員揃っての予選通過は素晴らしいが、まだまだ気は抜けない。また、日本のユースチームはこれまでも大会日数を経るごとに選手のパフォーマンス

スが落ちてくるが多かったのも気になる。そこで今回は木村ヘッドコーチを中心に毎日必ず全体ミーティングを行い、士気を落とさないような工夫もした。

世界ユースは、当たり前だが外国で開催される関係で、時差だけでなく、言葉や生活習慣、食事などでストレスを感じてしまうユースが多い。特に初参加(初海外)やYBほどその影響は大きい。観察すると、やはりYBなど初海外組はどうしても苦労している感じに見受けられたが、年長のYAやジュニア海外合宿の経験者などがフォローしてくれたので心強かった。

予選2日のあとは1日スピードの競技で、日本はスピード競技への参加者がいないため、休養となり。各自思い思いに過ごす。

最終日(8/19)。まずはセミファイナル。朝から選手にも、会場にも緊張感が漂っている。ここからが、本当のワールドユースという感じだ。

予選はフラッシュなので、チーム内で情報の共有などが可能だったが、ここからは個々の強さが求められる。

日本チームは男子YBから2名、もっとも激戦の男子YAも4名全員、女子YBから2名、女子Jr.から1名の計9名が決勝に進む。数時間のセットののち、決勝が開始された。男子YBの日比野、大高は、これま



大会会場



表彰台の日本チーム

でも多く見てきた典型的な日本ユースの失速パターン。同じような場所であっけなく落ちてしまう。2名ともYB初出場なので今後に期待したい。

女子YB大場は、この大会では予選1本目を完登することで幸先の良いスタートを切り、その好調さを決勝でも維持し3位表彰台へ。同じカテゴリーの田嶋は予選の1本と準決勝で若干詰めの甘さが出たが、決勝では粘りで核心を突破し、優勝。

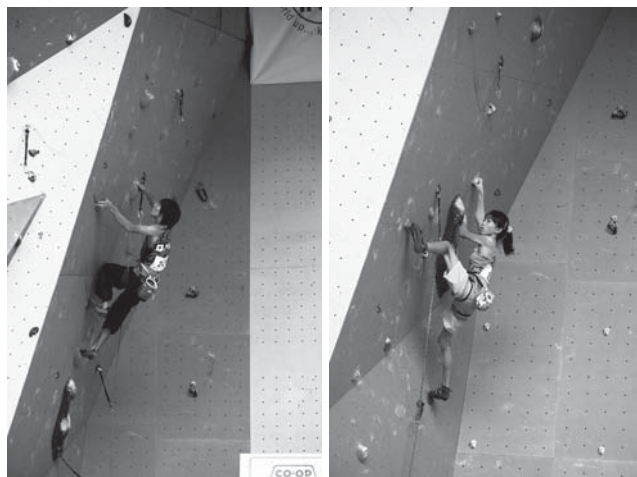
女子Jr.尾上は、順調に決勝に進出したものの健闘及ばず。このクラスではオーストリアのマグダレナ・ロックが圧倒的な強さで優勝。

男子YAは、出場枠4名をフルにして臨んだ最も期待できるカテゴリー。事実、決勝の登りが終わった段階の暫定順位において、1位是永、2位島谷、3位野村、5位波田と、これはついに表彰台独占！と舞い上がる。しかし、他国から、1位の是永が、「クイックドロを使った」とのアピールが出された。結局、ジャッジの判定は「クイックドロを使った」という結論で、抗議もむなしく最終順位において、是永は大きく順位を落としてしまう。それでも最も激戦であるYAにおいて金、銀メダルの獲得はとても価値が高い。現在、各大会で活躍している選手の多くがワールドユースのYAにおいて、優勝などの表彰台経験者だからだ。逆にいえば、YAで表彰台に上がれないまま大人の大会で活躍することがいかに厳しいかということなのだ。

ほか気になったのは、6名中5名が決勝に残ったフランス、いつも通り強いオーストリア、開催国のお隣のアメリカのYB選手らが目を引いた。特にアメリカのYB男子KAIの登りは、黒人系というだけでなく、これまでのアメリカ男子の伝統的な登りとは明らかに異なり個人的に一番印象に残った。

さて、今回日本は、金2、銀1、銅1の素晴らしい成績で終わることができた。国別のメダル獲得数ではリードに限ればオーストリアと並び1位。過去最高の成績。

はじめてユースチームに関わったとき、安間や野口ら素晴らしい才能の選手もいる一方で、会場入りする前に体調を崩す選手や、あまりの緊張で実力を全く出しきれない選手、当然ながら予選落ちする選手も当たり前だった。各世代の世界チャンピオンを決める大会なのに、日本チームには修学旅行や保健室のような雰囲気の時すらもあった。そんなときは、もちろん結果も良くなかった。男子ではかつてワールドカップ優勝した平山から次の安間までおおよそ10年かかった。この10年というスパンをいかに短くするか、が大き



男子YA優勝の島谷選手 女子YB優勝の田嶋選手

な課題だと思って自分は関わってきた。

我々スタッフは、基本的に代表選手を日常的に指導しているわけではない。ボランティア・ベースのスタッフによる(即席の)チーム運営というのが実情だが、何年間にもわたり現実的な工夫は少しずつ積み重ねてきた。とは言うものの最も今回の成績に貢献したのは、ユース選手の指導にあたっている方々のような気がする。入賞の有無、代表選考に関わらず、ユースに関わってきたすべての関係者の努力やその厳しい競争があっはじめて今回の成績が出たと思っている。ありがとうございました。

今回の結果は、関わった全スタッフにとって大変うれしく、日本のユース代表選手を本当に誇らし思った。

(記 小日向徹)

競技結果	
男子ユースA (YA)	1位 島谷 尚季
	2位 野村真一郎
	4位 波田 悠貴
	8位 是永敬一郎
女子ユースB (YB)	1位 田嶋あいか
	3位 大場 美和
	19位 菊沢 絢
男子ユースB (YB)	24位 錦織 美里
	6位 日比野良祐
女子ユースA (YA)	8位 大高 伽弥
	6位 尾上 彩
男子ジュニア (Jr.)	9位 小武 芽生
	17位 義村 萌
女子ジュニア (Jr.)	12位 高田 知堯
コーチ・スタッフ	木村伸介、安井博志、鈴木友希、目次俊雄
チームマネージャー	小日向徹

## ジュニア登山教室 in 立山を終えて

8月14日新宿駅19時、今回で4回目となる「ジュニア登山教室 in 立山」が無事終了した。別れ際に中学2年生の女の子二人が「西内先生、来年は3年生だけど絶対に募集の案内送ってください。」と言っていたのが印象的であった。彼女達は開講式の自己紹介の時に「今年で4年目の参加です。最後の年なので思いっきり楽しみたいです。」と言っていたのに。

今回の参加者は小学校2年生から中学2年生までの32名、そのうち約3分の2がリピーターである。この企画の人気を物語っているといえよう。

何が子どもたちを引き付けるのか。クライミングや登山の楽しさはもちろんだが、子どもたち自身がここに集まった友達と一緒にこの登山教室を作り上げ楽しもう、そんな雰囲気が自然に醸し出され大きなエネルギーとなって全体を包み込んでいるからではないか。そんな子どもたちからの「元気」を受け取ることができた4日間であった。

11日、新宿駅を7時30分に出発。途中、高速道路の渋滞もあったため、国立立山青少年自然の家での開講式の前に称名の滝を見学した。滝見台で水しぶきを浴びスケールの大きさに圧倒される。その後、自然の家入りし開講式。6～7名の生活班に分かれて食事をし、翌日の行動を確認した。5つの生活班は様々な学年の子どもたちで構成されている。ちなみに今回の男女比は男子11名、女子21名である。

12日は午前中が立山カルデラ砂防博物館見学。博物館の方からクマの生態や立山の地形、カルデラについて説明を受けた。博物館の飯田さんの非常に熱心な説明ぶりが印象に残った。午後は国立登山研修所でクライミング。その前に研修所の食堂で食べたカレーライスはとてもおいしかった。クライミングは女の子のほうが粘り強く何度も課題にチャレンジしていた。小学校2年生の小さな子ががんばってトップに達した時には、感激のあまり涙が出たと八木原副会長が語って

いた。一生懸命な姿は人を感動させる。富山大学の学生2人が富山岳連の方たちと一緒にずっとピレーをやってくくださった、お疲れ様です。

13日はいよいよ登山の日。雄山、大汝山に登るA班。浄土山に登るB班。C班は天狗平を巡るコースである。Aの1、2班は先行して大汝山まで登る。一ノ越から雄山への登山道は沢山の登山者で数珠つなぎになっている。Aの3班6名は雄山の往復。今までこの登山教室は好天に恵まれなかったそうだが、しかし今回は初めて青空のもと山頂に達することができた。雄山は登山客でいっぱい。子どもたちはカップラーメンが一杯500円なのにびっくり、また雄山神社奥の院に行くのに500円かかることにさらにびっくり。大汝山へは14名が登頂。黒部湖と氷河を眼下にすることができた。B班は7名、室堂山から立山カルデラを観察して浄土山へ向かう。岩場の登りがかなりあり、ワイルドな気分を味わうことができた。C班5名は小学校2、3年生主体、自然観察に加え雪渓での雪合戦で盛り上がった。

下界は35℃に迫る暑さだが、ここ立山は別天地だ。まさに「夏なのに雪があるっ！」のである。みんな指導の先生に従って岩場では手袋をし、強い日差しの下では帽子をしっかりとかぶっていた。この日は富山岳連から永山さん、黒崎さん、山岸さん、登山研修所の渡邊所長がそれぞれのコースと一緒に歩いてくださった。15時過ぎに全ての班が登山行動を終えてバスに戻った。一日素晴らしい天気にも恵まれてみんな日焼けしていい色になった。

夕食後19時からキャンプファイヤー。神崎会長の挨拶で始まり、八木原副会長扮する火の神の言葉、歌、着火の儀式の後各班からのゲームとなった。震源地ゲーム、貨物列車に猛獣狩りゲームも全員嬉々として遊び、あっという間に時間が過ぎていった。仲間が集まれば道具など何もなくても遊べる。現代のモノに



国立立山青少年自然の家にて



浄土山 山頂にて



立山カルデラ砂防博物館

囲まれた生活の中で忘れかけていた「友達エネルギー」にあふれたひとときであった。

14日最終日は朝食、掃除の後、閉講式。「4日間のふりかえり」では一番楽しかったことやがんばったことなどを、思い思いのイラストなどを入れつつ感想用紙がいっぱいになるまで書いた。その後、神崎会長から一人一人に修了証と記念の缶バッジが渡された。

自然の家前で記念写真を撮り、バスで立山博物館近くの「まんだら遊苑」を見学。他界、陽の道、天界、闇の道を歓声を上げながら通り、最後に立ち寄った古民家ではすぐに鬼ごっこが始まった。まさに疲れを知らない子どもたちなのである。立山の駅前で富山県の



クライミング体験

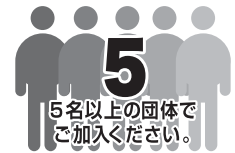
子どもたちと手を振って別れた。その後バスは関越道上りで少し渋滞に巻き込まれたが、新宿駅にほぼ予定どおりに到着した。

「ジュニア登山教室」を企画、準備する際は細心の注意をはらい神経を使う。しかし終わった後に「やってよかったなあ」と心から思えることが素晴らしい。今後も彼らが友達の輪を広げ、多くの子どもたちが山の楽しさ、仲間との交流に心弾ませることを願っている。

最後にこの企画に携わったすべての人々に感謝の意を表したい。また来年立山で会いましょう。

(記 谷口浩平)

# スポーツ安全保険®



傷害保険

賠償責任保険

突然死葬祭費用保険

対象となる事故 **団体活動中の事故 / 往復中の事故**

保険期間 平成25年4月1日午前0時より平成26年3月31日午後12時まで(申込受付は平成25年3月から)

加入区分・掛金・補償額 団体活動を行う**5名以上**の方でご加入ください。加入区分は加入者ごとにご選択ください。

加入対象者	補償対象となる団体活動	加入区分	年間掛金 (1人当り)	傷害保険金額				賠償責任保険 支払限度額 (免責金額なし)	突然死葬祭 費用保険 支払限度額
				死亡	後遺障害 (障害)	入院 (日額)	通院 (日額)		
子ども 中学生以下 特別支援学校 高等部の 生徒を含む。	スポーツ活動 文化・ボランティア・地域活動	A1	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円	突然死 (急性心不全 脳内出血など) 葬祭費用 180万円
	上記団体活動に加え、個人活動も対象 AW区分の特徴：個人活動・個人練習なども補償の対象となります。 上段：団体活動中およびその往復中の補償額 下段：上記以外(個人活動など)の補償額	AW	1,450円	2,100万円	3,150万円	5,000円	2,000円	身体・財物賠償 合算1事故5億500万円 ただし、身体賠償は1人1億500万円	対象外
大人 高校生以上 65歳以上 の方も加入 できます。	文化・ボランティア・地域活動、団体の送迎、応接、準備、片付け ※スポーツ活動を行う場合は対象となりません。	A2	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円	突然死 (急性心不全 脳内出血など) 葬祭費用 180万円
	スポーツ活動 スポーツ活動の指導・審判	C	1,850円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円	
	子どもへのスポーツ活動の指導・審判 ※C区分でも加入可	AC	1,300円	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円	
65歳以上	スポーツ活動 ※C区分でも加入可 ※スポーツ活動を行わない場合はA2区分	B	1,000円	600万円	900万円	1,800円	1,000円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円	対象外
全年齢	危険度の高いスポーツ活動	D	11,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円	身体・財物賠償 合算1事故5億円 ただし、身体賠償は1人1億円	対象外

※同一団体で1口しか加入できません。中途加入する場合、中途脱退する場合も年間掛金を適用します。加入後の加入者の入換え、加入区分の変更はできません。  
※危険度の高いスポーツ活動はD区分以外では補償されません。

スポーツ安全協会 検索 インターネットからの加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

## 公益財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル8階 TEL03-5510-0022

保険の詳細内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

<http://www.sportsanzen.org>

●資料請求は、インターネットより受付しております。

この広告はスポーツ安全保険(スポーツ安全保険特約書に基づく傷害保険(スポーツ安全協会傷害保険特約)、スポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外)、突然死葬祭費用担保特約(傷害保険)、賠償責任保険(スポーツ安全協会賠償責任特約)等が適用される保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外)の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(公財)スポーツ安全協会または、東京海上日動火災保険(株)までお問い合わせください。

(引受幹事保険会社)  
東京海上日動火災保険株式会社(担当課)公務第2部公務第1課  
TEL 03-3515-4133(平日9:00~17:00)  
(共同引受保険会社(平成25年4月予定))  
あいおいニッセイ同和 共栄火災 損保ジャパン 大同火災 東京海上日動  
日新火災 日本興亜損保 富士火災 三井住友海上  
平成25年1月作成 12-T-09679

## 第58回 Mountain World

### カラコルム2つの7000m級未踏峰

池田常道

スティーヴ・ハウスが挑んで果たせなかった2つの7000m峰がこの夏あいついで初登頂された。クンヤン・チッシュ東峰(7400m)とK6西峰(7040m)である。アラスカの巨大な壁をノンストップで登りきる「ライト&ファスト」スタイルを確立したハウスは、2004年にチャラクサ氷河でK7(6934m)南壁をソロ。翌年にはヴィンス・アンダーソンとナンガ・パルバット(8126m)南壁を一撃してピオレドールを受賞した。

彼が翌年の目標としたのは再びチャラクサ氷河で、いずれも未踏のK7西峰(6858m)とK6西峰(7040m)だった。しかし、この年チャラクサ氷河は、印パ停戦ラインの緊張で閉ざされ、やむなくヒスパー氷河のクンヤン・チッシュ東峰(7400m)に変更した。ナンガ・パルバットの相棒ヴィンス・アンダーソンと標高差2500mに及ぶ南西壁を攻めたが、頂上まで300mのところまでロックステップに阻まれてしまった。

2007年、チャラクサ氷河は再び開放され、ハウスとアンダーソンはスロヴェニアのマルコ・プレゼリと共にK7西峰に初登頂した。返す刀で狙ったK6西峰はしかし、セラック崩壊の危険と悪天候に妨げられ、氷河上で1泊しただけで敗退した。その後、この当代最強のトリオはマカルー(8463m)西壁に興味を移し、何度も挑戦するが果たせなかった。

\*

巨大なクンヤン・チッシュ山塊の一角を成す東峰は、2003年にポーランドのグシェゴシ・スコレクとスタニスワフ・ピエツフ、ヤヌシュ・ゴワブが挑んで6700mまで達していたが、スコレクは翌年、天山のハン・テングリで遭難死してしまった。2009年には山川剛司、谷口けい、長門敬明が6100mまで登っている。

今回初登頂に成功したのは、オーストリアのハンス・イェルクとマティアスのアウアー兄弟、それにスイスのジーモン・アンタマッテンのトリオである。アウアー兄弟は高所が初めてだが、アンタマッテンはネパールのテンカンポチェ(6487m)北東壁やジャサンバ(7351m)南南東壁を初登攀した経験があった。NH

KのBSで放送された「グレート・サミット」シリーズでマッターホルンの回に「ガイドのシモンさん」として登場していたからご記憶の向きもあるだろう。

出発を前にしてマティアスが手指を負傷したため、ハンス・イェルクとアンタマッテンが先に入山。6400mのアイスケーキ・ピークなどで順応後6月25日に攻撃を仕掛けた。3日間で7000mまで達したが、ひどい嵐につかまっていったん下降を余儀なくされた。4日後の攻撃は、降ったばかりの雪で雪崩の危険があったため5600mで断念となった。そうこうするうちに、遅れて入山したマティアスもなんとか順応過程を消化して戦列に加わった。10日間の悪天候をしのいだ3人は7月14日に出発、2日間で6600mまで登った。その夜のビバークはチリ雪崩にテントを埋められたが翌18日は晴れ上がり、昼過ぎにはそろって頂上に立つことができた。ハウスが敗退したロックステップはいわれたほど難しくはなかったという。

\*

ことしK6西峰に挑んだのは日本の今井健司、宮城公博、中島健郎のトリオだった。ハウスと同じ氷河から7月5日北西壁に取り付くが2日目の夜降雪に見舞われ、翌日はビバーク地の修復に費やした。4日目はミックス帯を抜け稜線直下の6450mに達したが、翌日再び悪天候に襲われて停滞、6日目に下降した。

カナダのラファエル・スロウインスキーとイアン・ウェルステッドはその半月後、1週間の好天が続くという予報に接して、同じ北西壁から攻撃を開始した。6000m付近の短いハング帯でルートを誤って1日ロスしたものの、4日目の7月29日に頂上を陥れた。

彼らが初登頂に成功した日にBCに入ったのは英国のアンディ・ハウスマンとジョナサン・グリフィス。カナダ・ペアのライン以外に適切なルートが見当たらないので、もう一つの未踏峰リンク・サール(7041m)に向かったが、結局失敗に終わった。グリフィスにとっては昨年に続く挑戦だった。



クンヤン・チッシュ東峰と初登頂ライン

# 第16回JOCジュニアオリンピックカップ開催

8月10日～12日、真夏のクライミング大会、ジュニアオリンピックカップが、例年どおり富山県南砺市の桜ヶ池クライミングセンターで開催された。今年は8月15日～19日に世界ユース選手権がカナダで行なわれるため、残念ながらそちらに出場する選手は不参加。それでも、北は北海道から南は沖縄まで、全国から213人の選手が集まった。さらに2人、カンボジアからも選手がゲスト参加し、215人となった。

最初の2日間は予選で、選手は一日1本のルートでフラッシングで登り、その2本のルートの成績を合計して3日目の決勝進出者が決定。男子予選は両ルートともに難しく(推定5.13a/b)、完登はひとりも出なかった。

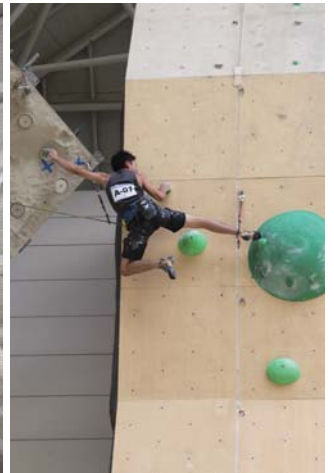
女子ルートは比較的やさしめ(推定5.12b)だったので、ジュニア(18、19歳\*)で3人、ユースA(16、17歳)で2人、ユースB(14、15歳)でも2人が両ルートを完登した。そして特筆すべきが男子アンダーユースB(12、13歳)で、毎年このクラスはレベル的にもリーチ的にも女子ルートが妥当ということで、女子に交じる形になっているのだが、今年はなんと5人が両ルートを完登。今後、女子ルートで行なうかどうか検討しなければならないこととなった。

決勝は、各カテゴリー6～12人の選手で争われた。人数に違いがあるのは、参加者数に合わせているからである。

各カテゴリーの優勝の行方も気になるが、最大の注目は、誰がいちばん到達距離を稼ぎ、総合優勝するかどうかであろう。その栄冠を勝ち取ったのは、男子が大阪の清水裕登(ユースA)、女子が岐阜の水口僚(ジュニア)。しかし、女子ルートでいちばん到達距離を稼いだのは女子ではなく、これまたアンダーユースBの田嶋瑞貴



抜きんでた実力を見せた  
田嶋瑞貴



決勝ルートの清水裕登

であった。

\*…正確には年齢ではなく、生まれた年。

(文＝北山 真 写真＝伊藤孝史)

【大会成績】リザルト(数字は決勝の成績)			
男子ジュニア		女子ジュニア	
1	村井 隆一(千葉)44+	1	水口 僚(岐阜)47+
2	小福田 透(岡山)42+	2	廣重 幸紀(福井)44
3	田邊 匡律(静岡)40+	3	五月女美元(栃木)37+
男子ユースA		女子ユースA	
1	清水 裕登(大阪)46+	1	竹内 彩佳(千葉)45+
2	飯田 譲(千葉)46+	2	坂井 絢音(埼玉)36
3	亀山 凌平(岐阜)46	3	小川那瑠実(岐阜)34
男子ユースB		女子ユースB	
1	中上 太斗(福岡)42+	1	清水 夏子(千葉)45+
2	豊田 将史(山口)38+	2	戸田 萌希(山梨)41
3	榑崎 明智(栃木)38	3	中村佑香梨(静岡)37+
男子アンダーユースB		女子アンダーユースB	
1	田嶋 瑞貴(三重)48+	1	倉 菜々子(愛知)42
2	土肥 圭太(神奈川)40+	2	樋口 結花(佐賀)41+
3	川畑イサム(鹿児島)34	3	小島 果琳(岐阜)28



2度目の総合優勝となった水口僚



全カテゴリーの1位～3位入賞者

# 平成25年度「SCコーチ養成講習会」報告

期 日 平成25年6月22日(土)～24日(月)、  
7月13日(土)～15日(月)

会 場 東京都山岳連盟会議室(6月22日)  
東京海員会館(6月14日～15日)  
東京都東久留米市スポーツセンター  
(7月13日～15日)

## 参加者

○西谷善子(立教大学非常勤講師)、水村信二(明治大学文学部教授)、宇土昌志(桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部非常勤講師)、岡崎政人(神奈川県新戸塚病院リハビリテーション科理学療法士)

○日山協

瀧本健、鈴木由朗、永井豊、中川裕、藤江理枝、廣川厚子、井納吉一

○コーチ養成講習会受講者 10名

## 【第1日目 6月22日】

10:00 東京都京橋にある東京都山岳連盟会議室にて受付開始及び開講式とオリエンテーション。

永井豊指導副委員長より挨拶、今後のスポーツクライミング(SC)の発展と競技(国際大会など)においてSCコーチの必要性を説明。



11:00 佐藤豊、佐原晴人講師による「競技の歴史、I F S Cルール」の講義

現在ある資料(競技の歴史)を刷新する必要性がある。歴史の年表(日本、海外、その年代のグレードなど)の作成。

- ・古い映像など交えて歴史の説明
- ・I F S Cのルールブックを用いるが、長文の為有る程度まとめて簡素化し説明する必要性がある、など受講者から活発な意見があった。

13:30 木村伸介講師による「トレーニング(計画)」の講義

テキスト作成においてジムなどのトレーニング・プログラムを公開するには問題点がある(知的財産権)。

- ・基本的なトレーニングを中心にする。
- ・ジュニアや大人によってトレーニングが変わる。年齢に適したトレーニング・プランを作成する必要性などの討議がなされた。

15:30 安井博志、奥村晃史講師による「コーチング(コミュニケーション、指導法、情報収集)」の講義

- ・選手のバックグラウンドを知ることの必要性や情報収集について議論が行われた。

18:00 終了

## 【第2日目 6月23日】

23、24日は場所が変わり晴海にある東京海員会館の会議室で行われた。

8:30 西谷善子講師による「栄養学」の講義。

タンパク質の上手なとり方やPFCバランス(タンパク質、脂肪、炭水化物)の重要性など選手などにも聞かせたい講義であった。

9:30 水村信二講師による「生理学」の講義。

水村氏は明治大学内にある人工壁での授業をしている事も有り、骨格筋、筋収縮メカニクスなどの講義をしていただいた。

10:30 西谷善子講師による「医学(損傷のケア・予防)」

13:30 西谷善子講師による「ケア・救急処置」の講義。

テーピングなどプロジェクターによる説明と受講者どうして実際にテープの貼り合いを行った。

15:30 宇土昌志講師による「メンタルトレーニング、イメージトレーニング」の講義。

受講者には興味がある講義だがなかなか理解が難し



い受講プログラムのもようであった。

17:30 終了

**【第3日目 6月24日】**

8:30 鈴木友希講師による「クライミング技術論」の講義

スキャモンの発達曲線を用いた年代別の技術習得方法(プレ、ポストの間にある)ゴールデンエイジ9~12歳が吸収力や空間把握能力などの講義を行った。

12:30 受講者全員によるコーチングの実践について議論を交わした。

コーチ、上級コーチにおいて今後、国内で何人位必要か?なども討議され前半3日間の講習会を終えた。

15:30 終了

**【第4日目 7月13日】**

東京都東久留米市スポーツセンターで開催。

10:00 中川裕講師による「一貫指導カリキュラム」についての講義

13:00 午前中に続き中川講師による「一貫指導カリキュラム」についての講義

16:00 奥村晃史、安井博志講師による「コーチングの実施(ムーブとテクニック)」の講義

17:55 中貝次郎講師による「一貫指導カリキュラム」の必要性、内容の作成について議論。

19:00 終了

**【第5日目 7月14日】**

9:00 有枝樹雄、篠崎喜信講師を中心にスポーツセンターにある屋外壁にて「セッティング」の実技講習を2班に分かれ、成年女子で準決勝、決勝のルートをそれぞれセットした。

13:00 岡崎政人講師による「ケア(テーピング)」を会議室にて行う。

アイシングとクーリングの違い。アイスパックの作り方や非伸縮性、伸縮性スポーツテープの違いやスポーツテープとキネシオテープの違いや効果など他。



実践で使えるテーピングなど受講者どうし貼り合いしながら講義が行われた。

16:00 午前中にルートセットした壁にて被験者として小川弥生選手に登ってもらいコーチングの実践、選手の評価、オブザベーションの仕方、課題の攻略など受講生達の熱い実技が行われた。

19:00 終了

**【第6日目 7月15日】**

9:00 佐藤豊、佐原晴人講師による「コーチングの実践(情報収集)」の講義

各国のトレーニング、指導の情報収集や大会開催地の詳細な情報の入手の必要性など細部にわたり議論された。

12:30 受講者全員での「一貫指導カリキュラム」についての討議

ワールドカップやオリンピック、世界選手権を目標とするカリキュラムを作る必要が有る事を確認し、今後の選手強化について各コーチがどのようなスタンスを取るのか熱い議論が展開された。

15:00 各受講生の検定として課題論文の後日提出と各講師として担当した内容をテキストとして提出する事で講義終了。

15:15 瀧本健指導委員長より閉会の挨拶。

15:30 全日程の講習会終了。

(記 井納吉一)



限定9名様 快適な山小屋泊りで踏破する、タスマニア大縦走

**タスマニア島  
オーバーランド・トラック 10日間**

発着地 東京 旅行代金 ¥618,000

出発日 11/24(日)・12/11(水)・1/19(日)・2/14(金)・3/7(金)

※燃油サーチャージ(2013年8月10日現在:目安約47,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコフ保証会員

**ALPINE ツアーズ サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com



## 竹内洋岳氏、文部科学大臣顕彰

国際競技大会で顕著な活躍があったアスリートや指導者を対象とした文部科学省の「スポーツ功労者顕彰」の表彰式が、8月27日に都内のホテルで行われ、昨年8000m峰14座完登を果たした竹内洋岳(42歳)さんが下村博文・文部科学大臣から表彰された。

表彰式には竹内氏のほか2012年世界選手権で42年ぶりの優勝を果たしたソフトボール女子代表や男子200m平泳ぎの世界新記録を樹立した山口観弘(18歳・東洋大)らが出席した。スポーツ功労者顕彰の被顕彰者は95名。

## 【新刊図書紹介】『唐沢岳幕岩』 編著：山森欣一

山嶺登高会創立50周年記念として、同会が初登攀した国内有数の大岩壁である北アルプス・唐沢岳幕岩の記念誌が上梓された。幕岩15ルートの登攀記録と状況、収録パーティ462、実登攀者525名がリストアップされている。本邦岩壁登攀史上稀に見る貴重な文献である。

価格 : 1,500円(別送料160円)

申込み方法 : 郵便振替口座番号: 00140-8-727570

加入者名: 「山森欣一」へ代金振込み

問合せ : FAX 03-3680-2316 山森欣一



平成25年度8月(25年8月)  
常務理事会報告

日時 平成25年8月8日(木)  
17:30~20:20  
場所 岸記念体育会館103会議室  
出席者 神崎会長、國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京才、水島、瀧本各常務理事、中島監事  
委任 八木原副会長、青木常務理事(13名中11名出席)

(3)競技部合同委員会  
7月18日(木) 出席者18名  
ア 競技部委員会の常任委員及び業務分担の確定について  
イ 選手登録費の改定について  
・高体連登山専門部所属生徒の選手登録について

・県大会からの選手登録、徴収範囲、実施時期等について  
ウ 高体連登山専門部の本会加盟について  
エ 平成25年度ブロック研修会の開催方法について  
・名称及び内容について

### 1. 専門委員会動静

7月常務理事会以降  
(7月12日~8月7日)

#### 【報告】

##### (1)自然保護委員会

7月16日(火) 出席者13名  
ア 6月常任委員会議事録確認  
イ 「山はみんなの宝」憲章制定発表会(6/27)の報告  
ウ 第9回山の博覧会(富士山がテーマ、6/29)の報告  
エ 平成25年度自然公園指導員表彰の決定(小川秀樹氏)  
オ 「山岳自然保護の集い・中央大会」の準備状況及び実施要項について  
カ 平成25~26年度自然公園指導員の委嘱について  
・5名(千葉3名、北海道1名、群馬1名)の辞退に対し千葉2名、群馬2名、北海道1名の新任で調整  
(2)ジュニア普及委員会  
7月16日(火) 出席者4名  
ア ジュニア登山教室 in 立山の準備について

## 寄贈図書

寄贈本	山森欣一	山嶺登高会50周年記念「唐沢岳幕岩」
雑誌	東京新聞社	「岳人」No.795
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.941
	(一財)日本スポーツプレス協会(AJPS)	「Extreme PRESS by AJPS」vol.9
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第401号
	(公社)日本パワートリフティング協会	「JPA時報」第57号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.644 '13.8月
	Korean Alpine Federation	「大山聯」2013 July Vol.175
	横浜山岳会	月刊「山」974号 2013年8月
	FEDME	「Anuario」2012
	(公財)健康体力づくり事業団	「健康づくり」No.424 2013.8月
	(公社)日本山岳会	「山岳」2013 Vol.108
	(公社)日本山岳会	「山」No.818 2013.7月
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第554 H25/8/1
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第501号
	(公財)尾瀬保護財団	「はるかな尾瀬」vol.22
会報	(公社)日本山岳会・自然保護委員会	「木の目草の芽」第105号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.286
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.463
	FEEC	「Vertex」No.249
	(公社)日本山岳会	「山」No.819 2013 8月号
	三峰山岳会	「岩つばめ」342号
	和歌山県山岳連盟	「和岳連」第39号
	中国登山協会	「山野」中国戸外 2013年8月 180期
	東京野歩路会	「山嶺」No.1002
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第402号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」2013 Aug Vol.176
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.645 '13'9
	朝日連峰保全協議会	「朝日連峰保全協議会ニュースレター」第8号
	生態計画研究所	「生態計画研究所 年報」No.8
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第307号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第404号



ご存知  
ですか？

# ～日本山岳協会山岳共済会会員様限定～ 「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険」のおすすめ

約52%  
割引!!



●このチラシは保険の特徴を説明したものです。詳細はパンフレット「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険のご案内」をご覧ください。(パンフレットは日山岳協会山岳共済事務センター宛ご請求ください。)

## この保険の主な補償内容

- ・登山中のケガで死亡された場合 (※加入タイプによってはケガによる入通院を補償対象とすることができます。)
- ・登山中に遭難し、遭難・捜索費用や救援者費用が発生した場合 等
- ・なお、登山・ハイキング中だけでなく、日常生活や業務中に起こった傷害事故も補償の対象となります。

## この保険のご加入条件

- この保険は「日本山岳協会山岳共済会」が契約者となる団体傷害保険です。お申込人(=被保険者(補償の対象者))となれる方は「日本山岳協会山岳共済会会員」のみとなります。
- 会員になる為の手続き方法は、山岳共済会ホームページ掲載の「山岳共済会のしおり」をご確認ください。(毎年別途会費が必要です。)

## 補償内容・保険料表 (詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。)

～「登山コース」の保険料例～

### 職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

#### 入院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間\*で入院は171件、通院は304件のお支払い  
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)  
1Bセット・1Cセットなら、1年間1万円前後の保険料でケガによる  
入院にも備えることができます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ							
	1S	S	1B	B	1C	C	1E	E
死亡・後遺障害	100万円	100万円	159万円	159万円	235万円	235万円	500万円	500万円
遭難捜索費用	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	500万円	500万円
入院保険金日額	1000円	なし	1000円	なし	1500円	なし	2500円	なし
入院を伴う手術保険金※1	○		○		○		○	
通院保険金日額	600円		600円		900円		1500円	
賠償責任	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
<b>保 険 料</b>	<b>6,450円</b>	<b>3,900円</b>	<b>8,260円</b>	<b>5,710円</b>	<b>11,540円</b>	<b>7,720円</b>	<b>23,940円</b>	<b>17,570円</b>

※1 手術保険金は、入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払します。

～「ハイキングコース」の保険料例～

### 職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

#### 通院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間\*で入院は171件、通院は304件のお支払い  
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)  
IIセット・新設のIIIセットなら、ケガによる通院にも備えることができ  
ます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ		
	I	II	III
死亡・後遺障害	150万円	250万円	300万円
救援者費用	300万円	300万円	500万円
賠償責任	1億円	1億円	1億円
入院保険金日額	2,000円	4,000円	5,000円
入院を伴う手術保険金	入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払いします。		
通院保険金日額	なし	1,500円	2,500円
<b>保 険 料</b>	<b>2,140円</b>	<b>5,470円</b>	<b>7,540円</b>

新設しました!

- 「登山コース」は、ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使用する登山中の事故を対象としております。一方、「ハイキングコース」は前記の登山用具を使用しない普通の登山(ハイキング等)中の事故を対象としています。
- このチラシの保険料は一例です。ご加入者様のご職業によって保険料が異なります。詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。
- どのタイプでもご加入できますが複数タイプ・セットのお申込みはできません。(全ての加入タイプ・セットのうちいずれか一つのみ選択可能。)
- 保険金額はご加入いただいた被保険者の人数に従った割引率で決定されますので、募集の結果上記と異なる保険金額に変更される場合があります。この場合、死亡・後遺障害保険金額を割引率に応じた金額とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 保険期間は平成25年4月1日～平成26年4月1日となります。毎月、パンフレット掲載の所定の日付での中途加入も受け付けております。

お問い合わせ及びパンフレット請求先: 日本山岳協会山岳共済事務センター

月～金 10:00～17:00(土・日・祝祭日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ホームページ <http://sangakukyousai.com>

契約者: 日本山岳協会山岳共済会

取扱代理店: 瀬田工業有限会社

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社

承認番号: B12-102339 使用期限: 2014.4.1

- オ 各事業の担当者及び会計責任者の割り振りについて
- カ 平成26年度以降の全国高校生選抜クライミング選手権及びユース日本選手権について
- ・開催地及び実行委員会の構成について
- (4)遭難対策委員会
  - 7月31日(水) 出席者8名
- ア 全国遭難対策協議会報告について
- イ 日本山岳文化学会遭難分科会の「自己責任のまとめ」について
- ウ レスキュー講習会について
  - ・講習会の担務について
- エ ロープ強度試験について
- オ 日中韓合同救助訓練について
  - ・25年度は5名の派遣で調整
  - ・26年度の日本開催(谷川岳案)について
- (5)ジュニア普及委員会
  - 8月1日(木) 出席者4名
- ア 中高年安全登山指導者講習会について
  - ・申込み状況の報告
  - ・参加者募集の促進文書の発送について
  - ・「週刊ヤマケイ」の掲載報告
- イ ジュニア登山教室 in 立山の準備について
- ウ 全日本登山体育大会について
  - ・第51回福井大会の報告書について
  - ・第54回大会の開催地検討
- (6)指導委員会
  - 8月5日(月) 出席者10名
- ア 7月常任委員会議事録の確認
- イ 7月常務理事会報告
- ウ 修了証の発行について
  - ・7月分発行(6月常務理事会承認分)
  - ・A C指導員(大阪4名、岩手4名、茨城5名)
  - ・8月発行予定(8月常務理事会承認分)
  - ・A C指導員(新潟1名、茨城1名、

- 石川5名)
- エ 指導者養成講習会実施申請(S C指導員・北海道)について
- オ S Cコーチ養成講習会の報告
- カ 指導員認定申請
  - ・A C指導員:上野義一、高桑章吉郎、中野政貴、南出達明、山口晴美、以上石川県5名
- キ 平成24年度中央開催(山口岳連主管)時の宿泊代のキャンセル料について
- ク S C-A級主任検定員、A C-B級主任検定員養成講習会(8/31~9/1)について
- ケ 登攀技術研修会(10/12~13、岩手)について
- コ S C指導員養成講習会について
  - ・独自開催:福岡(11/2~3、11/16~17)
  - ・地方開催:宮城(8/17~18、8/24~25)、沖縄(12/7~8、12/14~15)、北海道(9/28~29、11/2~3)、神奈川(10/19~20、11/23~24)、鳥取(1/18~19、1/25~26)
- サ 義務研修受講の徹底について
- シ S Cコーチ理論検定について
- (7)国際委員会
  - 8月6日(水) 出席者10名
- ア 海外登山女性懇談会の名称と在り方について
- イ 海外登山奨励金の交付方法について
  - ・半年単位の分割案について
- ウ 第26回海外登山女性懇談会について
  - ・日程、会場、ゲスト・スピーカーについて

## 2. その他の重要事項

(7月12日~8月7日)

### [報告]

- (1)山岳4団体懇談会 7月17日(水)
  - 於:南国酒家迎賓館
  - 神崎会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事

- (2)平成25年度 toto助成金交付式
  - 7月24日(水) 於:東京プリンスホテル 尾形専務理事
- (3)第56回高頭祭 7月25日(木)
  - 於:弥彦山
  - 神崎会長、八木原副会長
- (4)カンボジア選手歓迎会
  - 7月27日(土) 於:プラザエフ
  - 神崎会長、小野寺、森下常務理事
- (5)本会の元理事で元新潟県山岳協会会長の室賀輝男氏逝去
  - 7月27日(土)
- (6)山岳7団体自然環境連絡会
  - 7月29日(月) 於:労山事務所
  - 石倉委員長、松隈、徳永常任委員
- (7)本会の元理事で島根県山岳連盟顧問(元会長)の岡村一郎氏逝去
  - 8月1日(木)
- (8)第56回全国高等学校登山大会
  - 8月1日(水)~6日(火)
  - 於:大分・九重連山 神崎会長、青木常務理事、高山委員長

## 3. 議事

- (1)平成25年度7月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)平成25年度専門委員会常任委員候補者(案)について(提案通り承認)
- (3)S Cコーチ小委員会(仮称)の設置について(提案通り承認)
- (4)I F S CクライミングWC 2014 印西大会の開催について(提案通り承認)
- (5)安全登山啓発リーフレット作成について(提案通り承認)
- (6)平成25年度雪崩災害防止功労者の候補者推薦について(遭対委員会と事務局に一任することで承認)
- (7)「救護に関する協定書」締結に伴う連帯保証人について(日体協や他の競技団体等を調査して回答することで承認)
- (8)第4回日中韓合同技術交流研修会の派遣について(提案通り承認)
- (9)参与候補者の推薦について(提案通り承認)
- (10)B M C国際ウインタークライマーズミートの派遣について(派遣を承認。選考は国際委員会に一任)
- (11)日山協オリジナル・メダル及び賞状の作成について(提案通り承認)
- (12)競技関係(特にリザルト)のHP掲出の即時対応について(結果を送稿して貰えば即時対応は可)

### NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和田峠「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

### NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

(13)報告事項

- ア 会計月次
- イ 平成25年度日本スポーツグランプリ(日体協)について(三浦雄一郎氏表彰)
- ウ 平成24年度スポーツ功労者表彰(文部科学省)について(竹内洋岳氏表彰)
- エ 高体連登山専門部の本会加盟と選手登録について
- オ 山岳ヘルメット着用奨励山域の指定と安全登山の呼びかけについて
- カ 2014冬季ソチ五輪のアイスクライミング選手派遣について(奈良誠文、八木名恵両氏を派遣)
- キ 2016年国際大学選手権のスポーツクライミング追加競技に係る開催地の立候補について
- ク 2014 U A A A 記念総会の準備状況について

4. 役員等の派遣について

- (1)第7回日中韓三国合同学生登山レセプション 8月16日(金)  
於：神奈川県横浜キャンパス 神崎会長
- (2)2020年東京五輪招致出陣式 8月23日(金) 於：都庁第1本庁舎5F大会議室 尾形専務理事
- (3)日本山岳写真協会写真展表彰式・祝賀懇親会 8月31日(土)  
於：上野精養軒 神崎会長
- (4)S C・A級、A C・B級主任検定員養成講習会 8月31日(土)～9月1日(日)  
於：神奈川県山岳スポーツセンター 瀧本常務理事

- (5)山森欣一氏日本山岳グランプリ受賞記念祝賀会 9月7日(土)  
於：プラザエフ 尾形専務理事ほか
- (6)東京国体組合せ抽選会 9月9日(月) 於：岸記念体育会館 尾形専務理事、森下常務理事、高山委員長
- (7)第4回日中韓合同技術交流研修会 9月13日(金)～20日(金)  
於：中国・西寧 町田、一本松常任委員、角田、毛呂群馬遭対委員
- (8)「山岳自然保護の集い・中央大会」 9月14日(土)～16日(祝)  
於：埼玉・小川げんきプラザ 神崎会長、森下常務理事、石倉委員長
- (9)山岳7団体自然環境連絡会 9月27日(金) 於：労山事務所 石倉委員長、松隈、徳永常任委員
- (10)平成25年度中高年安全登山指導者講習会(東部地区) 9月27日(金)～29日(日)  
於：愛知・宇連山系 神崎会長、仙石常務理事
- (11)第68回東京国体総合開会式 9月28日(土) 於：味の素スタジアム 佐藤副会長
- (12)U A A A 総会 9月28日(土)～10月2日(水)  
於：パキスタン・イスラマバード 神崎会長、小野寺常務理事
- (13)U I A A 総会 10月3日(木)～7日(月)  
於：スイス・ポントレジーナ 八木原副会長、小野寺常務理事
- (14)第68回東京国体役員全体会議・監督会議 10月3日(木)  
於：東久留米市スポーツセンター 神崎会長、國松・佐藤副会長、森下常務理事、高山、山本、北山委員長
- (15)第68回東京国体山岳競技大会 10月4日(金)～6日(日)  
於：東久留米市スポーツセンター 神崎会長、國松・佐藤副会長、森下常務理事、高山、山本、北山委員長

5. 後援、協賛等の依頼について

- ア 「秋田わか杉国体山岳競技記念植樹」後援名義について(秋田県山岳連盟主催)(承認)

- イ 第7回日中韓三国合同学生登山の後援名義について(日本山岳会主催)(承認)
- ウ 山岳・クライミング写真展 山岳フォトコンテスト(福井県山岳連盟主催)(承認)
- エ エクアドル登山家「パトリシオ・ティサレマ」来日記念講演会(在日エクアドル大使館他主催)(承認)

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認 なし
- (2)指導員の認定承認
  - ① S C 指導員 なし
  - ② S C 上級指導員 なし
  - ③ アルパイン指導員 上野義一、高桑章吉郎、中野政貴、南出達明、山口晴美、以上石川県5名(承認)
  - ④ アルパイン上級指導員 なし

編集後記

猛暑が続き雨不足と思っていたら、集中豪雨、竜巻など気象変動が大きく急激で不安になってしまうような天気が続いている。温暖化で空気中に蓄えられる水蒸気の量が増え一気に放出されるらしい。又、海水面の温度が高いので積乱雲が急速に発達して突風、竜巻が起きているようだ。

さて、2020年夏季オリンピック・パラリンピックの開催地が、東京に決まった。スポーツ関係者、地元東京、国民の多数は大歓迎であろう。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第534号

定価 100円(送料別)  
 予約年間 1,200円送料共  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月一回15日発行)  
 発行日 平成25年9月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395



想像をはるかに超える“保温力”

# 超肌着力